

約100年前に立田山で発見された「ヤエクチナシ」の自生地は、国指定天然記念物「立田山ヤエクチナシ自生地」となっています。現在、ヤエクチナシは、伐採や盗掘等により自生地では絶滅したと考えられています。自生地外の各地に複数系統が植栽されています。これら貴重な遺伝子資源の保全には、みんなに関心を持って取り組むことが重要です。

立田山におけるヤエクチナシの歴史

1920～1928年：第五高 浅井東一博士らが立田山で八重咲きのクチナシ(ヤエクチナシ)を発見。

1929年：「立田山ヤエクチナシ自生地」が国指定天然記念物に。

戦中戦後：伐採や盗掘等により消失(絶滅)?

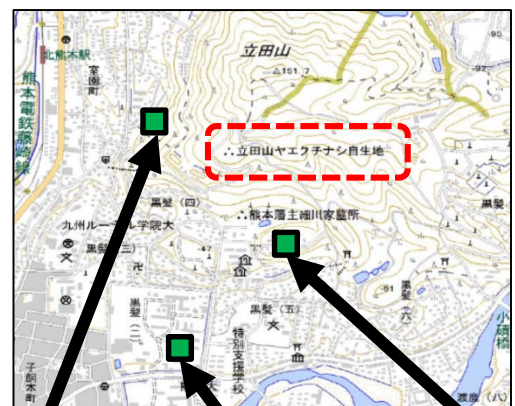
1960年頃：拝聖院において分布を確認。

1967年：自生地での再発見に向けた調査開始。

1969年：1株を再発見(数年後に、再び消失)。



様々な花の形のヤエクチナシ



拝聖院
 熊本大学
 (旧制 第五高等学校)
 森林総合研究所
 九州支所

再々発見に向けての取り組み

立田山には、クチナシが多く分布するが...

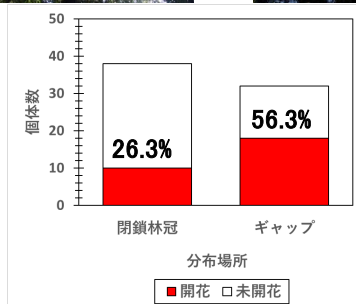
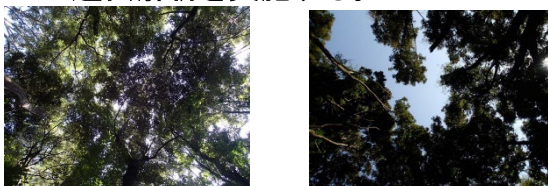
☞ 暗い林冠下では開花個体数が少ない。

☞ 現在まで、再々発見できていない。

今後は...

☞ 開花調査を継続して実施する。

☞ 遺伝解析を実施する。



林冠の違いによるクチナシの開花状況(数値は開花率)
 左:閉鎖した林冠、右:ギャップ(隙間)が形成された林冠

ヤエクチナシの保全に向けて

自生地における開花に適した環境整備の実施。

☞ 再々発見に期待。

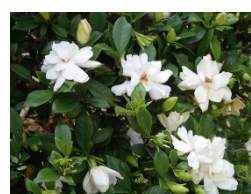
自生地外で複数系統が保護増殖されている。

☞ 遺伝子資源の保全・管理を推進。

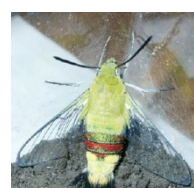
オオスカシバ幼虫による食害被害が多い。

☞ 適切な防除を実施。

みんなで、関心をもつこと。



自生地外で植栽されているヤエクチナシ



オオスカシバの成虫(左)と幼虫(右)

謝辞:ヤエクチナシに関する調査・研究は、「熊本県立第二高等学校(スーパーサイエンスハイスクール:SSH)」および「立田山ヤエクチナシ井戸端会議」と連携して実施しています。